

はじめに

宮崎県では恵まれた自然条件を生かし、「宮崎21世紀農業プラン」を基調に、畜産・野菜・花き・水稻を主体として、環境保全に留意し、標高差を生かした、地域の特性に応じた農作物の生産を推進しております。

また、農作物の生産基盤である農地については、多様化する作目、農業形態、環境保全に十分対応できる「土づくり」を図るため、有機物の投入、深耕、作物診断、土壌診断等に基づいた栽培・施肥改善等の積極的な取り組みを実施しているところです。

しかしながら、農産物の自由化や農業従事者の高齢者等、近年のきびしい農業情勢に対応してゆくためには、生産コストの低減を図るとともに、安全、新鮮で品質の高い農作物を安定して供給することが重要な課題となってきました。

このような厳しい農業情勢の下で、農業生産基盤であります土壌・肥料の分野においても、適正な土壌管理の基に土壌生産力維持・向上を図るとともに、環境保全型農業を推進する必要があります。

このため、「主要作物の土壌診断基準」を策定しましたので、今後の土壌管理及び施肥技術の指導に活用されるようお願いします。

平成9年3月

宮崎県営農指導課長

徳永保利